

平成28年篠山市政10大ニュース（解説）

※ 掲載は時系列順としています。

1 原子力災害に備え安定ヨウ素剤を事前配布（1月31日）

篠山市は福井県の大飯、高浜の原発から約50kmの距離にあります。それらの原発で事故が発生した場合、平成25年に兵庫県が発表した放射性物質の拡散予測は甲状腺の被ばく線量が7日間で最大167ミリシーベルトとなり、県内では最も高く、安定ヨウ素剤の服用がされる国際基準の3倍を超えることが判りました。（平成26年の兵庫県発表では100、1ミリシーベルトで、国際基準の2倍）そこで、篠山市では、医師、専門家、市民による原子力災害対策検討委員会を設けて議論の結果、甲状腺がんの発症を防ぐため、安定ヨウ素剤の事前配布が提言され、万一の原発事故の場合、配布することも困難であることから、安定ヨウ素剤の事前配布を行いました。

1 日本遺産フォーラムin丹波篠山開催（2月20日）

篠山市が代表幹事を務め、平成27年度に文化庁が創設した「日本遺産」に認定された全国18カ所の地域が集う「日本遺産フォーラムin丹波篠山」をたんば田園交響ホールにおいて開催しました。当日は、文化庁の基調講演、各地域からの報告の後、演劇サークル「花いちもんめ」の公演、デカンショ踊りを披露しました。そして、構成地域で日本遺産連盟を結成し、日本遺産を地域住民に浸透させ、観光や魅力あるまちづくり、情報発信に取り組むことを宣言しました。

1 多紀小学校開校（4月1日）

篠山市立福住小学校・同村雲小学校・同大芋小学校の3校が統合し、村雲小学校の校舎を使い、新たに「篠山市立多紀小学校」が平成28年4月1日に開校しました。平成28年4月3日に開催された開校式では、新入生18人を含む96人の児童、保護者、地域住民ら約350人が参加し、児童会長の森田一志さん（6年生）が「チームワークを深め、世界一の学校を作っていく」と誓いの言葉を述べ、全員で多紀小学校の校歌を斉唱し、船出を祝いました。

1 篠山城跡・篠山口駅周辺を路上喫煙禁止区域に指定（4月1日）

路上での吸い殻のポイ捨て防止、受動喫煙の防止、そして、美しい篠山市をめざして、篠山城跡ならびに篠山口駅周辺を路上喫煙禁止区域に指定するとともに、市内全域で路上喫煙をしない努力義務を定めた篠山市ポイ捨て等及び路上喫煙防止条例を平成28年4月1日に施行しました。

1 丹波篠山デカンショ館オープン（4月28日）

篠山市の「日本遺産」認定を記念し、デカンショ節やデカンショ祭をはじめ、丹波篠山の歴史や文化、自然、特産品なども紹介する「丹波篠山デカンショ館」が平成28年4月28日、青山歴史村内にオープンしました。館内のバーチャルデカンショ踊りブースでは、AR（拡張現実）技術を駆使してデカンショ踊りが再現され、おまつりの会場でデカンショ踊りの輪に入っているような雰囲気を経験することができます。

1 丹波篠山いきもの48 (TSI48) を推進、ふるさとの川再生モデル事業完成 (5月6日)

篠山市の身近ないきものにスポットをあて、いきものとの共生を図るキャッチフレーズとして、「丹波篠山いきもの48 (TSI48)」を定めました。それを推進するため、ふるさとの川再生モデル事業の第1号として、城東グラウンド西側の河川を、コンクリートを壊して、メダカやどじょうが棲めるよう、底に木や石を沈めて深みを作ったり、岸を土、石積み、竹柵などにしました。篠山市が本当に自然豊かであるよう取り組んでいきます。

1 味間認定こども園の新園舎完成 (7月4日)

味間認定こども園おとわ園とすみよし園を一体化した新園舎が丹南健康福祉センター北側に完成し、平成28年7月4日から、多くの園児が新しい園舎で学んでいます。新しい園舎の整備にあたっては、保護者や地域住民などによる味間認定こども園整備検討委員会を設け、そこでのご意見を採り入れ、周辺の公共施設と調和した外観や色彩、篠山産木材の活用、園庭の芝生化、折りたたみ式扉などが施され、大変利用しやすい施設となっています。

1 愛南町と姉妹都市提携締結 (8月15日)

デカンショ祭初日の平成28年8月15日、愛媛県愛南町から、清水雅文町長、山下太三議長、中村維伯教育長をはじめ多くの皆さんにお越しいただき、篠山城跡大書院で姉妹都市提携を締結しました。国内姉妹都市は愛知県犬山市に続き2都市目。愛南町は人口約2万3000人で、隣接する宿毛市との間で山頂を分け合う「篠山」があることなどから、平成24年1月、災害時相互支援協定を締結して以降、学校給食の食材に黒豆やカツオを提供し合うなどの交流を重ねてきました。

1 神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ開設 (10月3日)

農村での起業や人材育成の交流拠点として、JR篠山口駅構内に平成28年10月3日、神戸大学・篠山市農村イノベーションラボを開設しました。篠山市には、神戸大学の前身である旧兵庫農科大学があったことから、大学と地域が協力していこうと連携協定を結び、平成19年には神戸大学篠山フィールドステーションを開設しています。篠山市の魅力や活かし、若い感性で取り組み、起業や定住につながるよう期待しています。

1 菅官房長官が篠山市を視察 (11月12日)

地域の観光振興の実情を視察するため、菅義偉官房長官が平成28年11月12日、篠山市を訪問し、古民家宿「集落丸山」や篠山城跡などを見学されました。菅官房長官は集落丸山での取り組みを「村の人が生き生きされている。空き家も放棄田もなくなったと聞く。このような取り組みを全国に広げたい」、篠山市については「まち全体が美しく、おもてなしの心を感じる。まちの景観をみんなで守ろうとしている取り組みは素晴らしい」と話されました。菅官房長官がお越しになったことは市民にとって大きな誇りであり、篠山市は空き家活用や観光の全国モデルとなりました。